

雲雀っ子

令和7年11月22日発行

ねばり強く やりぬく子

- ・自分で考える
- ・仲間と助け合う
- ・最後までやりきる



「人権」について考える

校長 奥村 美樹恵

12月10日は世界人権デーの日です。第二次世界大戦中において、人権侵害、人権抑圧が横行したことから、人権問題は国際社会全体に関わる問題であり、人権の保障が世界平和の基礎であるという考え方が生まれました。

そこで昭和23年12月10日、国際連合第3回総会において、全ての人民と全ての国とが達成すべき共通の基準として、「世界人権宣言」が採択されました。その世界人権デーを最終日とする1週間(12月4日から12月10日)を「人権週間」と定められました。(総務省 HP より)

「人権」とは、「全ての人が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」あるいは「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持つ権利」であり、誰にとっても身近で大切なもの、違いを認め合う心によって守られるものだと思います。つまり、自分自身を含む一人一人に、幸せに生きていくための大切な権利なのです。しかし、いじめや虐待等のこどもの人権問題、外国人やアイヌの人々、差別や偏見、部落差別等々、様々な人権問題が依然として存在しています。近頃はインターネットを介した人権侵害が深刻化しています。これらの問題の解決には、私たち一人一人が様々な人権問題を、「誰か」のことではなく、「自分のこと」として捉え、互いの人権を尊重し合うことの大切さについて、認識を深めることが不可欠だと言われています。

学校の教育活動においても、人権教育は常日頃より大切にしていますが、特に11月17日～12月1日までの約2週間を人権について考える「ひびきあい週間」とし、様々な人権について考える取り組みを強化しています。

例えば、いじめのない、仲間を大切にす温かいクラスにするために、「あったか言葉宣言！」を各学級で掲げ、クラス全員で意識して取り組んでいます。「ありがとう」「ごめんね」といったちょっとした一言で、みんなが笑顔になれる、温かい気持ちになれる。その気持ちや感情を大切に皆で心と心を通わせる取り組みを行っています。

また、各学級において道徳の時間には、思いやりや公正・公平、個性の伸長など、様々な価値について皆で考え、人として大切なことを学んでいます。

先日は、なかよし班(異学年交流班)で、「ともだち」について話し合いました。絵本の読み聞かせを基に、ともだちって自分にとってどんな存在か、自分の言葉で語る子供たちの姿にどの子にとっても大切な存在であることが伝わってきました。

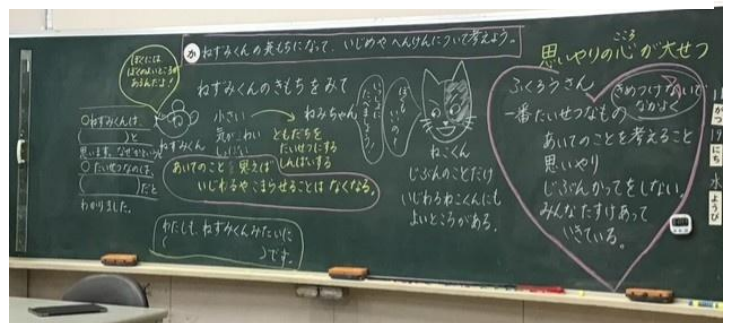
那加二っ子の絆を深め、仲間と積極的に関わろうとする子供たちの姿を目指し、まだまだ活動は続きます。

この機会にご家庭でも「人権」について、家族皆さんでお話してみたいかがでしょうか。「誰か」のことではなく「自分のこと」として捉え、自分はどう生きていくか、一人一人が考えるいいチャンスです。



▲各クラスのあったか言葉宣言

▼2年2組の道徳の記録



募集!「家庭での挨拶の取り組み」

6月の学校だよりでもお知らせしましたが、桜中校区では、今年度「挨拶ができる子を育てよう」と地域あげて挨拶に取り組んでいます。登下校中には地域の方々から子供たちに挨拶をしてください。そこで保護者の皆様をお願いします。皆様のご家庭での挨拶についての取り組みを是非教えてください。「こんなこと意識しています」「こんなことをやっています」等々、お聞かせください。学校だよりなどで紹介させていただきます。右のQRコードからお入りください。ご協力よろしくお願いします。

「挨拶」の取り組みを教えてください

